

日清製粉グループ 連結決算、次期連結業績予想

当期は営業利益・経常利益は増益。資本政策(政策保有株式縮減・自己株式取得)も順調に進捗。次期業績予想は中東情勢の不確実性に伴うコスト上昇リスク等を織り込み営業利益・経常利益は減益も、当期の減損損失計上の反動及び政策保有株式縮減等により当期純利益(親会社株主帰属)は増益を見込む。

当期配当は前期より5円増配、次期はさらに5円の増配を予定。

[2026年3月期連結決算]

売上高	8,650億 4百万円	(前期比 101.6%)
営業利益	466億 85百万円	(前期比 100.7%)
経常利益	513億 97百万円	(前期比 104.4%)
親会社株主に帰属する 当期純利益	325億 89百万円	(前期比 94.0%)

(株)日清製粉グループ本社(取締役社長:瀧原 賢二)の2026年3月期の連結業績につきましては、売上高は、海外製粉事業における小麦相場の下落や為替換算の影響等があったものの、エンジニアリング事業における大型工事の増加、加工食品事業及び酵母・バイオ事業の出荷増等、中食・惣菜事業の販売堅調等により、8,650億4百万円(前期比101.6%)となりました。利益面では、国内製粉事業における水島工場稼働に伴う立上げ費用の発生、海外製粉事業及びメッシュクロス事業における出荷減等はあったものの、加工食品事業及び酵母・バイオ事業の出荷増及び価格改定の実施、エンジニアリング事業の受注増等により、営業利益は466億85百万円(前期比100.7%)、経常利益は513億97百万円(前期比104.4%)となりました。親会社株主に帰属する当期純利益は、政策保有株式の縮減を進めたものの、インドイースト事業での固定資産の減損損失計上により、325億89百万円(前期比94.0%)となりました。

当期の配当につきましては、前期より5円増額の1株当たり年間60円を予定しております。なお、株主還元の更なる充実と資本効率の向上及び経営環境を踏まえた資本政策遂行のため、自己株式8,997,500株を176億65百万円で取得しました。

[2027年3月期通期連結業績予想]

売上高	8,700億円	(前期比 100.6%)
営業利益	460億円	(前期比 98.5%)
経常利益	490億円	(前期比 95.3%)
親会社株主に帰属する当期純利益	410億円	(前期比 125.8%)

2027年3月期の通期連結業績予想につきましては中東情勢の緊迫化による原油価格の高騰を背景に、原材料価格やエネルギー価格、その他資材等のコスト上昇リスク等を想定し、コスト転嫁のタイムラグ等も勘案した上で、売上高は8,700億円(前期比100.6%)、営業利益は460億円(前期比98.5%)、経常利益は490億円(前期比95.3%)、親会社株主に帰属する当期純利益は、政策保有株式の更なる縮減及び固定資産売却等により410億円(前期比125.8%)としております。

なお、次期の配当につきましては、当期よりさらに5円増額の1株当たり年間65円を予定しております。

以上